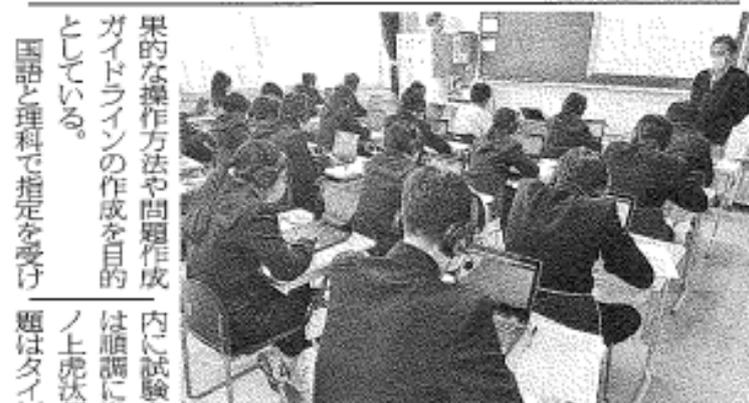


## 国研 全国学力等調査 CBT化へ

### 附属函館中で模擬試験

#### 口述問題や操作方法視聴など

【函館発】全国学力・学  
習状況調査のCBT方式が  
次年度から順次実施される  
のを前に、国立教育政策研  
究所は調査問題の在り方を  
調査する研究事業を國學院  
大學に委託して実施してい  
る。道内では道教育大学附  
属函館中学校（中村吉秀校  
長）が国語と理科の協力校  
に指定され、3年生101  
人が模擬試験を受験。国語  
の「話すこと」領域におけ  
る口述式問題をはじめ、動  
画によるチュートリアル  
（操作方法）視聴などCB  
Tならではの問題にヘッド  
フォンを着用して臨んだ。II  
写真II。生徒からは「タイ  
ピング入力によって円滑に  
回答できる」などの利点が  
挙がる一方で、記述式問題  
では「字数制限の設定に  
よって、回答を整理しづら  
い」との課題を指摘する意  
見も寄せられた。



た同校は3年生  
が45分間でCB  
Tに実装した模  
擬試験を受験。  
国語の口述式問  
題ではヘッド  
フォンを着用  
し、出題の意図  
に従って回答を  
録音・提出する  
などの操作に対  
応した。

当日は多くの  
生徒が制限時間  
内に試験を終え、試行実施  
は順調に進んだ。生徒の池  
ノ上虎汰郎さんは「記述問  
題はタイピング入力によっ  
てスピード感を持って取り  
組めた」とCBTの利点を  
実感。小鹿美翔さんは「紙  
ベースではモノクロ印刷で  
見えにくい図や写真もあっ  
たが、タブレットでは鮮明  
に理解できる。各教科で操  
作説明もあり分かりやす  
かった」と話した。

一方、国語科の記述式問  
題では「文章を要約するま  
での過程で多くの文章を入  
力したあとに整理しようと  
思ったが、字数制限でかな  
わなかった」と困り感を振  
り返った。

事業のテクニカルアドバ  
イザーを務める國學院大の  
寺本貴啓教授によると、C  
BTならではの問題の例とし  
て、理科では実験過程の録  
画提出なども想定できると  
いう。事業を通して「CB  
Tだからこそ制することので  
きる資質・能力を問う問題  
や児童生徒がつまづかない  
操作説明の開発に努めてい  
きたい」と話した。

国研と同大は今後、協力  
校から得た試験結果とアン  
ケートをもとに、運営上の  
課題を整理。教科・校種ご  
との委員会を通して問題作  
成ガイドラインおよび報告  
書をまとめる予定としてい  
る。

果的な操作方法や問題作成  
ガイドラインの作成を目的  
としている。

国語と理科で指定を受け